

連立政権参加、約6年での公明党の成果は？

経済を元気に。児童手当、奨学金拡充など実績多彩

公明党の連立参加は日本の政治に安定をもたらし、経済の元気を回復するとともに、「生活者の視線」からの政策を着実に実現してきました。さらに、平和、福祉、環境、人権、教育、文化など、旧来の保守政治では優先順位の低かった分野を政治の表舞台に押し上げました。

少子化対策の柱である児童手当の支給対象は、連立参加前は約240万人。現在は約940万人、小学3年生まで拡充されています。奨学金は有利子奨学金（きぼう21プラン）の貸与枠が58万人強まで拡大。連立前と比べて約5倍に増えています。

このほか、税金のムダ遣いをなくすため行政評価法の実現や、女性専用車両の導入、若者の就労を支援する「ジョブカフェ」の設置など実績は多彩です。

民主党が政権交代を訴えているが？

「改革つぶし」の民主党では政治は大混乱に

民主党は、衆議院で政権交代をと氣勢を上げています。しかし、郵政民営化法案に対案も出さずに反対に回った「改革つぶし」の姿を見れば、「改革反対勢力」である民主党に政権を任せられないことは明らかです。

年金制度改革でも、民主党は、年金制度の一元化を叫んでおきながら、与野党の協議機関である社会保障両院合同会議の場では、一元化を議題にした議論を避けるなど、無責任な態度をとっています。こんな口先だけの民主党に政権を任せたら、日本の政治は大混乱になります。

しかも、かりに衆院選で民主党が過半数を取ったとしても、参院での過半数割れの状況は変わらず、極めて不安定な政権になることは間違いありません。すぐに政権が行き詰まる恐れすらあります。

民主党は、3年前には不良債権処理に反対し、実現不可能な高速道路の無料化を声高に叫び、年金一元化のための議論に背を向け、そして今回の郵政民営化法案に反対するなど、「改革を停滞させる党」です。そんな民主党が改革を進めることは不可能です。

公明党は衆院選で何を訴えるの？

ムダゼロや安全・安心社会の実現へ改革断行

今回の選挙は、「改革を進める」のか、「改革を後退させる」のかを問う選挙といえます。公明党は、連立政権で多くの実績を挙げてきた「改革力」を訴えていきます。

公明党が断行する改革は、徹底したムダゼロの推進 防災・防犯対策の充実で世界一安全・安心の日本の構築 日本の将来を見据えた子育て・少子化対策 などが柱です。また、景気回復、経済活性化のために中小企業支援や雇用対策に取り組むほか、女性政策の充実、文化芸術振興なども強力に推進してまいります。

みなさんのご意見をお聞かせください。



公明党鎌倉総支部

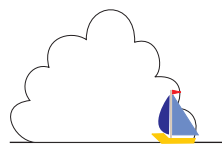
(鎌倉市、逗子市、葉山町)

メールアドレス

鎌倉市 kamakura@v-koumei.com

逗子市 zushi-koumei@ap.to

葉山町 suzuki.michiko.hayama.@nifty.com



公明党こそが「改革を断行できる政党」であることを強く訴え、衆院選での大勝利をめざして全力で戦い抜いてまいります。選挙の結果、自民、公明両党で過半数の議席を確保できれば、次期国会に郵政民営化関連法案を再提出し、必ず成立させる方針です。